

研究所たより 研究所たより

協同総研の事務所が3/22より、赤羽に移転します。高田馬場 雑司が谷 東十条に続き研究所の13年の歴史で3度目の引越となります。現在の事務所のオーナーである会員の第一経理さんのビルが空いているということでお借りしたのが、2000年6月。以来、大衆演劇の劇場があり、下町情緒たっぷりの東十条に4年弱の間お世話になりました。

新しい事務所のある赤羽は、JR京浜東北線、埼京線、高崎線、宇都宮線などの列車が停まるので、交通の便は多少よくなるのではないかと思います。にぎやかな繁華街も近いので、ぜひお立ち寄り下さい。新住所につきましては、最後のページ、「研究所日誌」の下に掲載しました。地図は、研究所のWebサイトに掲載する予定です。

2年越しの懸案であった、協同総研のNPO法人取得の手続きを現在行っています。すでに都庁にて一度相談を行い、3/29(月)に申請する予定です。東京都はNPO法人の申請数が多く(平成16年2月27日現在、申請受理数3,475団体)申請相談だけで1ヶ月以上待ちます。縦覧等手続きが終わって設立は7月末になる予定です。何度かの議論を経てNPO法人の取得を決めたわけですが、研究所全体がNPOに移行するのではなく、研究所の一部を法人化するということとなります。協同総研の組織構造上、現状のNPO法にはうまく合わない点(出資の問題など)があり、あくまでも任意団体の協同総合研究所があり、補完的にNPOが存在するというイメージになります。設立が完了した時点で、またお知らせ

せします。

スペインのマドリードで、列車へのテロがあったとのニュースを聞き、97年の5月から7月にかけて、日本労協連とマドリードの労協連との交換プログラムで、かの地に滞在した時のことを思い出しました。ちょうどその時期に、今回も名前があがっているETA(バスク祖国と自由)による政治家の誘拐テロがあり、市民による大規模なデモに遭遇しました(内容は協同総研Webサイトに発表しています)。何より印象に残ったのは、街中の広場で、多くの人が集まり議論をしている姿でした。

今回もマドリードでは200万人規模のデモが行われています。スペイン人気質なのかもしれないませんが、人々が思ったことはすぐに口に出し行動する、正しくないと思うことについては、身をもって反対の意思を示す、というところに何というか、健全な市民社会のありようを感じた覚えがあります。

ひるがえって、日本を見ると確か昨年の中頃、イラク戦争開始直前の緊張感の中で、欧州の大規模な反戦デモを横目に見ながら「何かやらねば」と思っていたのに、今は遠い昔のように思えます。まさに「のど元過ぎれば」の典型のようなものです。しかし、マドリードで起こったことが明日にも日本で起こらないとも限りません。

やはり思ったことは行動しなければ、、、。次の土曜日にはデモに行ってみようと思います。

菊地 謙